

安川電機 2025 年度 第 3 四半期累計期間 決算オンライン説明会 質疑応答（サマリー）  
(2026 年 1 月 9 日（金）)

【回答者】

上席執行役員 コーポレートプランディング本部長 林田 歩

上席執行役員 経営企画本部長 一木 靖司

(注記) :

モーションコントロール：モーションコントロールセグメント

AC サーボ：AC サーボ・コントローラ事業（モーションコントロールセグメント）

インバータ：インバータ事業（モーションコントロールセグメント）

ロボット：ロボットセグメント

システムエンジニアリング：システムエンジニアリングセグメント

その他：その他セグメント

【実績】

Q 売上収益と営業利益の着地が想定通りのことだが、3Q 利益率が 2Q 利益率の 10%を超えた水準から 1 ケタ台に落ち込んでいる。モーションコントロールの実績をどう評価しているのか。

A 想定通りの着地。3Qにおいては特殊要因をもともと想定しており、一時的に利益率は落ちると想定していた。具体的には中国において構造改革を進めており、2 つあった基板組立工場を 1 つに統合するなど、余剰な生産能力を見直した。これに伴う一時的なコストが発生した。加えて、2Q では売上に対し生産が先行している状態だったため、3Q に一部調整を行っている。このため、2Q で積みあがった生産利益が 3Q では出でていない。さらに、需給バランスの関係で半導体向け製品における棚卸評価損が発生したことでも要因のひとつであった。しかし、半導体については足元で力強い需要回復が受注で確認できており、半導体向けの売上が増加する 4Q では発生した評価損は取り戻す計画している。

Q モーションコントロールにおける一時的なマイナス影響は実際にどの程度か。

A 約 15 億円程度。一部がその他費用に計上しているものの、大半は原価に計上している。なお、半導体向け製品に関する棚卸評価損については、すべて原価に計上している。

Q 2Q 決算発表時に棚卸資産の削減を目的とした生産調整を行うと言っていたが、実際に 3Q ではどうだったのか。

A 2Q で増加した分の調整を 3Q で実際に行つた。ただし 4Q では、需要の回復が想定を上回っているので、生産量を増加させる予定だ。

Q 3Q のロボットにおいて、案件ミックスによって収益性が低下した背景を教えてほしい。

A 中国や韓国における自動車 OEM 向け案件の売上規模が拡大したことによる。特に、韓国 OEM 向けの案件が 2Q から継続して売上を計上しており、3Q ではその売上比率が高まった。

Q ロボットの収益性は、3 四半期連続で減少傾向だが、収益性が悪い案件の売上計上が完了するのはいつ頃か。

A 一部、来年度売上予定の案件があるが、大部分は今期 1~3Q で売上を計上している。

### 【見通し】

Q モーションコントロールの 4Q の利益目標は達成できるのか。

A 高い利益率を計画しているが、4Q の売上計画のうち 7~8 割が受注残からのものであり確度は高い。中国における構造改革によって 3Q に発生した一時的なコストは 4Q で発生しないことや、発生していた棚卸資産評価損も 4Q で取り戻す計画だ。これらの結果、4Q の収益性は改善し、計画の達成は可能と考えている。

### 【市場】

Q 国内半導体関連の在庫調整は進んでいるか。

A お客様の在庫調整は概ね完了している。よって、装置の増産に切り替わるタイミングが焦点となっている。足元では 12 月の動きが好調で、AI 関連やメモリー分野で増産の兆しが見えている。特に韓国の大手メーカーが増産に踏み切る見通しであり、関連する装置メーカーからの注文が入り始めている。当然ながら日本の装置メーカーもこの流れに加わるため、さらなる回復が期待される。

Q 中国において装置の輸出向け需要は回復傾向か。

A 状況が厳しいのは内需であり、中国外への輸出については悪くはない。輸出向けの装置には当社の AC サーボが使われているため、この傾向は当社にとって変わらずポジティブだ。

Q 米国では EV 以外の車種も普及しているが、こうした市場動向に対して何らかの変化はあるのか。

A ハイブリッドを含め、EV にこだわらない引き合いの動きが一部見られるものの、特に変化はない。

### 【受注】

Q AC サーボの 3Q 国内受注は前四半期比でマイナスとなっているが、チップマウンターなどの電子部品向けを含む受注動向の見通しはどうか。

A 2Q で強い伸びを見せていたチップマウンター向けの受注が 3Q で減少した。一方、AC サーボの 3Q 受注ではアメリカが半導体向けで回復している。顧客である大手装置メーカーにおいて、在庫消化と生産調整が終わったと判断している。

Q AC サーボの受注について欧州、アジアの状況を教えて欲しい。また、インバータの米州の動きはどうか。

A AC サーボの欧州のお客さまは加工機メーカーが多いが、前四半期までは経営状況が非常に厳しく、リストラや生産・在庫調整が続いている。この状況はこれまで 1~2 年ほど続いていたが、ようやくめどが立ち、当社への注文が戻りつつある。

アジアの AC サーボ事業は、韓国市場が大きく、メモリメーカーの増産に伴い、装置メーカーからの需要が回復している。さらに、台湾でもこれまでの営業活動が功を奏し、大手ファウンドリ関連の受注も増加してきている。

インバータについては、米州でオイル・ガス関連の大口案件がある。売上は来年度以降になるが、オイル・ガスのパイプライン制御を行うための投資に伴い、当社への発注が増加している。加えて、データセンターを中心とした大型空調（HVAC）分野で、データセンター全体の空調向けや AI チップの冷却装置向けに新たな受注を獲得している。

Q 中国における AC サーボの受注傾向について教えて欲しい。

A 半導体を中心に回復基調であり、加工機メーカーなどからの受注も少しずつ上昇している。

Q 米州のインバータ事業で受注したオイル・ガスの大口案件の規模はどの程度か。

A 90 億円程度だ。ただし、売上・利益への貢献は来年度となる。

Q ロボット事業の中国の受注が前四半期比で増加している背景は何か。また、他地域の動向も含めて教えて欲しい。

A 中国においては OEM 向けではなく、自動車関連の Tier1 からの受注が貢献している。他地域の動向については日本と欧州では大きな動きが見られず、アジアでは韓国が回復傾向にある。

Q 受注について、3Q の着地に対する評価と 4Q に向けた方向感を教えて欲しい。

A 全体として 3Q は想定通りの受注規模だった。4Q のモーションコントロールについては、半導体の回復がこれまで以上にはっきりと見えている。また、3Q ではオイル・ガスの大口案件があつたため、4Q にかけて受注額は減少する想定だが、大口案件を除いて比較をすれば堅調に推移する計画である。ロボットは横ばいの計画であり、システムエンジニアリング事業は、3Q から延期された社会システムや鉄鋼の案件を受注する予定のため、4Q 受注は増える想定だ。

### 【AI ロボティクス】

Q 決算補足資料 P.15 の AI ロボティクス領域の拡大に向けた取組みについて、AI ロボティクス領域が拡大していると判断する材料は何か。

A 当社は、AI の活用によってモーション制御技術を進化させていくとしているが、AI ロボティクスはまだ始まったばかりであり、現時点では領域が拡大していると明確に判断する材料を持ち合わせているわけではない。ただし、すでに当社は AI を搭載した自律型ロボット「MOTOMAN NEXT」を製品化して

おり、AI ロボティクス領域が拡大することは「MOTOMAN NEXT」の販売増につながると考えている。26 年度早々に予定している次期中期経営計画の開示において、詳細を説明する。

Q フィジカル AI に対する市場の期待は高まっており、競合各社も多様な製品を展開し動きが活発化している。フィジカル AI 領域においてどのような戦略を描いているのか。

A 2 年前に「MOTOMAN NEXT」の販売を開始した当時は、変種変量生産への対応レベルはまだ低かった。しかし今回の国際ロボット展では、AI 活用をさらに進化させた取り組みを示し、AI ロボティクス領域において他社に先駆けた先進性を示せたと認識している。本展示会では競合各社もフィジカル AI の発展を見据えていることが伺えた。このような動向は、AI ロボティクス領域を一過性のブームで終わらせないための良い兆しといえる。当社は、AI を活用した事例を積み重ね、具体的な取り組みを加速させることで、今後の業容拡大につなげていく考えだ。

Q フィジカル AI への取り組みを加速する中で、現状、引き合いは増えているのか。

A 国際ロボット展を機に案件は増えている。しかし、業績への貢献にはもう少し時間を要する。

#### 【ヒューマノイド】

Q 社長のインタビュー記事の中で、ヒューマノイド市場へ参入すると記載があったが、詳細を教えてほしい。

A ヒューマノイドは二足歩行のイメージが強いが、当社はあまりこだわってない。移動には AMR などを用い、その上に人間の上半身のようなヒューマノイドを載せる構成を考えている。よって、周辺のコア技術の獲得のために東京ロボティクスを買収し、ヒューマノイドの性能を高めるアクチュエーターを開発中だ。なお、当社は二足歩行の技術を否定しているわけではない。技術としては面白く、世の中から活用ニーズがあれば力を入れていく。

#### 【地政学リスク】

Q 中国のレアアースに関する輸出規制はモーションコントロールの事業にどの程度影響するか？また、レアアースの在庫はどの程度保有しているのか？

A 従来から、レアアースの中国依存については危機意識を持っており、国内の有力なマグネットメーカーには長期的な契約で所要量を確保してもらっている。そのため、今回の規制強化が足元の業績に影響するリスクはほぼないが、長期化すれば、当社のみならず日本の産業全体に深刻な影響を及ぼす懸念があるため、政府による迅速かつ適切な対応が求められる。

#### 【次期長期・中期経営計画】

Q 新中期経営計画の発表でどのようなメッセージが出るか、ニュアンスを知りたい。

A 現行の長期経営計画・中期経営計画では、高い目標を掲げて取り組んだが、結果として達成できなかった。次期計画においては期待を裏切らないよう、課題を整理してしっかり取り組む。方向性としては、既存事業においては、当社が持っている強みを各地域で再強化する。量と質の両方を追求す

るが、特に重視するのは質である。また、成長に向けた資金配分や成長投資などの財務的な考え方の新たな方針を示し、機関投資家の皆さまに理解・支援してもらえるような内容を提示したい。なお、AI ロボティクスはこれから本格化し、当社はこの領域でのポジションを確立するため真剣に行動していく。

以上